

# NUBIC知的財産情報開示

開示日： 2009年11月10日

各位

NUBIC知的財産情報の要約をお届けいたします。  
尚、NUBICベンチャークラブ特別会員、一般会員にはすでにお知らせしています。

	NUBIC管理番号: <input type="text" value="2009000047"/> 整理番号 <input type="text" value="11411"/> 担当者 <input type="text" value="小森 幹雄"/>
表 題	<input type="text" value="営繭状況を観察可能な可視化まぶしの開発"/>
技術分野	<input type="text" value="生活・文化"/> <input type="text" value="繊維・紙"/>
適用製品	<input type="text" value="学校で行われているカイコの飼育用教材。小規模な環境下でのカイコ飼育用資材"/>
目 的	<input type="text" value="従来の「まぶし」では、カイコが糸を吐く際の様子を観察することができなかった。これは糸を吐く際に新聞紙などでまぶしを覆う必要があったためである。本発明では可視化でき、かつリサイクル可能な資材の作成を目的としている。"/>
技術概要	<input type="text" value="従来用いられてきた「まぶし」はカイコを個別に隔離して繭を作らせるための仕切りがあった。そのため、導入できる個体数は「まぶし」の穴の個数を上限として決められていた。またカイコが逃走しないようにするため高所に掲げてあったり、新聞紙などで覆いを作る必要があり、中を観察することができなかった。これらのものは専用の製品を用いる必要があった。現在、国内養蚕業の衰退に伴い、「まぶし」は製造されていない。また「まぶし」は養蚕業の歴史的な背景から文化財としての価値が認められている。そのため限られた「まぶし」を使用し続ければ、文化財の損失につながる。本発明の「可視化波形まぶし」は既に市販されている資材を加工して作成されたものであるため、素材の調達が容易である。また繰り返し利用できるため、労働コストの割に販売コストが安いといわれる養蚕におけるコストの削減も可能となる。さらに小中学校で教材として扱われるカイコの飼育では、繭の作成状況が観察できるため、教育的な効果が非常に高い。"/>

技術移転等をご希望の場合は、下記事項をご記入の上、本用紙にてお申込みください。

(FAX, e-mail, 郵送いずれでも可。)

各担当コーディネーターからご連絡を差し上げます。

面談希望日時	<input type="text"/>		
(ふりがな) 氏 名	<input type="text"/>		
会社名	<input type="text"/>		
所 属	<input type="text"/>	役職	<input type="text"/>
電話番号	<input type="text"/>	FAX番号	<input type="text"/>
E-mail	<input type="text"/>		
連絡事項	<input type="text"/>		



【申込み・問い合わせ先】

日本大学産官学連携知財センター (NUBIC)

〒102-8275 東京都千代田区九段南4-8-24 日本大学会館

TEL: 03-5275-8139 FAX: 03-5275-8328 E-mail: nubic@nihon-u.ac.jp